

筑波大学新聞

第272号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会
委員長 荻野祥三

TEL: 029(853)2040・6699
E-mail
shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

JAXAと連携協力協定
第1回天の川学会 改修案を検討
逢坂教授 世界初の宇宙芸術作品
陸上 男子5年ぶりの総合優勝
水泳 入江が大会新を樹立
本学オリジナルトイレットペーパー製作

特集 4
スポーツ嫌いでも楽しめる
筑波大学の共通体育

おことわり

今月号は8面構成で発行しました

史を概説した。講演の最後
では、「学部の壁」がない
などの本学独自の利点を生
かしつつ、「総合科目をど
のようにして構造化する
かが重要になってくるの
ではないか」と、本学の教
育の展望を述べた。

最後に、FD委員会委員
長の溝上智恵子教授(図情
メ)が総括を行った。溝上
教授は、「文部省の先生が、
自らの総合科目がどのよ
うな位置付けにあるのかを確
認してほしい」と述べた。

理解しやすい心掛ける 教養教育への提言も

総合科目FD研修会

高評価科目の教員が講演

来年度に向けて総合科目の検討を行う「平成20年度第1回総合科目FD研修会」が9月26日の午後3時10分から、大学会館国際会議室で開かれた。総合科目のオーガナイザー教員や学生など合わせて約50人が参加した。1学期に実施された「学生による授業評価アンケート」の分析結果が報告されたほか、オーガナイザー教員による講演などが行われた。



研修会ではまず、総合科目編成委員長の金井幸雄教授(生物圏)から、今年度の総合科目の履修状況、授業評価アンケートの分析結果が報告された。1学期にア

ンケートが実施された53科目の満足度の平均は80.4%。そのうち33科目で80%を超えるなど、高い評価を受けた。一方、6つの学類・専門学群で所属学生の3割以上が自学類開設の科目を受講するなど、自分の専門に近い分野の科目を選択する傾向が出た。結果を受け金井教授は「筑波スタンダード」が掲げる豊かな教養をはぐむための科目として、総合科目が十分に機能しているかについては、さらに検証が必要である」と総括した。

オーガナイザー教員による講演では、まず前年度から20ポイント以上満足度が上昇した「心の実験室」の加藤克紀准教授(感性)が講演を行った。加藤准教授は、前年度評価が低かった原因となった資料の使い方を再検討し、「学生がきちんと理解できるような授業を心がけた。その上での個々の先生方の努力が、評価上昇につながったのではないかと話した。続いて、授業評価アン

ケート8位で、前年度に続き10位以内だった「森林」の中村徹教授(地縁技術)が講演を行った。中村教授は「講義を行った。中村教授も、パワーポイントや写真などの視覚資料や、配布資

料の準備などを重視し、「易しく、優しい授業を心がけた」と述べた。高校を卒業したばかりの学生でも理解できる授業が、高評価のポイントになったようだ。

続いて、小笠原正明・本学特任教授が「日本の教養教育・世界の教養教育」という演題で講演を行った。小笠原教授は古代ローマから現代までの教養教育の歴

史を概説した。講演の最後では、「3年次生以上を対象とし、地球環境問題や社会問題など、現在重要とされている課題に取り組む」現代的総合科目(現代的課題探究科目)の設置を掲げたほか、外国語教育の充実などにも言及した。

最後に、FD委員会委員長の溝上智恵子教授(図情メ)が総括を行った。溝上教授は、「文部省の先生が、自らの総合科目がどのような位置付けにあるのかを確認してほしい」と述べた。

学長選考

31日に学長予定者選出 4人が「ポスト岩崎」争う

岩崎洋一学長の任期が今年度末で満了することに伴い、学長選考会議は学長候補者を9月26日に公表した。4人が本学教員の推薦を受け、「ポスト岩崎」の座を争う。学長予定者は10月31日に決定する予定だ。今回推薦された候補者は高木英明教授(社シス・

システム情報工学研究科経営・政策科学専攻長)、井上勲教授(構造生物・学長特別補佐)、山田信博(附属病院長、田中二郎教授(CS・システム情報工学研究科長)の4人。各候補者の推薦書、推薦者名簿、所信表明書などの公示は10月8日に行われ、10月29日の学

内意向投票、31日の学長選考会議を経て学長予定者が選出される。学内意向投票は午前8時半～午後3時の間に行われる。また、不在者投票も10月9～28日の期間、午前8時半～午後5時の間に受け付ける。なお、候補者の経歴は以下の通り。

▽高木英明(たかぎ・ひであき) 58歳。1972年東京大学理学部物理学科卒。93年本学教授社会学系。02年副学長。06年から大学院システム情報工学研究科経営・政策科学専攻長。

▽井上勲(いのうえ・いさお) 58歳。1974年東京大学理学部物理学科卒。93年本学助教授電子・情報工学系。98年教授電子・情報工学系。07年からシステム情報工学研究科長。

▽山田信博(やまだ・のぶひろ) 56歳。1976年東京大学医学部医学科卒。99年本学教授臨床医学系内科(内分沁代謝)。03年附属病院副病院長。07年から理事・附属病院長。

▽田中二郎(たなか・じろう) 56歳。1975年東京大学理学部物理学科卒。93年本学助教授電子・情報工学系。98年教授電子・情報工学系。07年からシステム情報工学研究科長。

アスベスト再調査

新たに15棟で対策必要に

調査結果の説明会も開催

今年度になり、文部科学省から新たに3種類のアスベスト(石綿)について、使用有無の分析調査の徹底が通知された。これを受け本学では、新たに176棟(約83000平方メートル)について再調査を実施。調査の結果15棟(約6811平方メートル)に

対策が必要だと分かった。現在すでに、15棟それぞれについて空気をサンプリングし、空気中に飛散しているアスベストの量の測定が完了している。検査では一般の大気中濃度と変わらない結果が得られた。

◇ 本学では、平成17年度から文科省の通知に基づいてアスベスト使用の実態調査を行い、改修を進めて来た。17年度は、重量比1%を超えてアスベストを含有するものについて調査を行い、92棟(約82400平方メートル)のアスベストを除去。その後「労働安全衛生法施行令」及び「石綿障害予防規則」などの一部が改正され、18年度から0.1%を超えてアスベストを含有するものについて調査が必要となった。これにより、17年度の時点では対策が不要だった棟について再調査が行われ、うち9棟(約2660平方メートル)で対策が必要と判明した。

そして今回、国内では使用されていないとされている種類のアスベスト3種が、実は国内で使用されていたことが分かり、文科省が調査範囲を拡大する通知を出した。新たに調査の対象になったアスベストはレモライトなど3種。再調査された176棟のうち、対策が必要になったのは15棟(約6811平方メートル)で、うち8棟が1の矢

の説明会を、9月25日と10月1日に平砂及び1の矢共宿舎で、本学アスベスト対策連絡会(座長 岡本健・特任教授)では、今回の調査結果

能な時期や撤去のための予算について学内で検討し、出来るだけ早くアスベストを除去したい」と話した。

ルで、うち8棟が1の矢宿舎で、本学アスベスト対策連絡会(座長 岡本健・特任教授)では、今回の調査結果

筑波おはる

本学には土俵がある。武道館1階の奥、道場の脇の閉ざされた場所にそれは存在する。以前は相撲同好会のようなものがあり、稽古が行われていたが、今は解散してしまっただけで、近所の相撲愛好家が子供力士達の指導のために使用しているだけと聞く。国技である相撲。その頂点に君臨する2人の横綱はどちら

つくば歳時記

9月10日に農林技術センターで行われた稲刈りでの1コマ。5月に植えた苗が黄金色に実り、稲穂を垂らした。稲の海が一面に広がっている。秋晴れの空の下、生物資源学類の学生らが収穫に汗を流した。楽しそうに稲刈り機を押す女子学生の笑顔がまぶしい。(撮影・高橋俊樹(社会学類))



JAXA と連携協力協定

宇宙に活動の場拓く

共同研究・人材育成に期待
連携講座開設案も

本学は9月17日、宇宙航空研究開発機構（JAXA、本部＝東京・調布市）と基礎から応用までの共同研究や教育・研究上の情報交流が協定書に調印し、握手を

交わした。本学と独立行政法人との協定は、今回で4回目となる。

本協定は本学と同機構の連携により、「本学での研究領域の拡大や大学院での積極的な人材育成の実現」、「JAXAにおける宇宙・航空に関する研究・開発の推進」、「研究学園都市での共同研究・開発および教育・研究の促進」を目指す。

これまで両機関は、宇宙航空関連の基礎・基盤技術などの共同研究や研究者レベルでの交流を続けてきた。それに加え、本学が総合大学である点を生かし、人文社会科学や医学、芸術など幅広い分野での共同研究や人材の育成・交流を実施することを検討。本協定締結の運びとなった。



握手を交わす岩崎学長（左）と立川理事長

藻類除去など改修案を検討

3月の施工を目標に

「第1回『天の川学会』」が9月25日、第3エリア食堂で開かれ、本学生や教員、施設部職員のほか、腰塚武志副学長が出席した。ウォータフロントプロジェクト（WFP）が去年から2カ年計画で進めてきた天の川改修プロジェクトに向け、土工、生資、芸術など各学類の教員がそれぞれ異体案を発表し、WFPメンバーの学生が施工案を報告

した。腰塚副学長は、本イベントの感想を「これこそ本学が目指す学際教育。今まで上手く位置づけられていなかったこのような取り組みを応援していきたい」と話した。

本イベントは、本学のシンボルでもある天の川の抱える問題を学生・教員・職員の間で共有することを目的に開催された。村上曉信講師（社シス）は「川の

WFPでは特に、天の川で繁殖する大量の藻類を除去・抑制することを主に改修案を計画。昨年度から続けてきた調査の結果を受け、「新しいポンプを設置して、流水量を増やし、稼働時間を伸ばす」、「縁石を設置して、日陰を作る」、「底材を敷設して、川底に酸素を供給し、堆積物の分解を促す」、「可動せきを建設して、川の環境を自然に近づける」ことなどを検討している。

今後WFPは具体的なプランを固め、施設部と予算的な問題を含めて話し合

プール改修工事

漕内の塗装をやり直す

屋内外とも既に完了済み

本学の屋内及び屋外プールの改修工事が7月16日に着工された。屋内プールは8月末に工事が完了し、屋外プールについても9月下旬から使用可能になった。来年度6月に日本水泳連盟が行う公認プールの定期検査に備えて、以前の検査で指摘のあったプール内面の塗装をやり直したものだ。

仕様書により、プールの塗装は4回行わなければならないため、本学のプールは5年ごとに公認更新の検査を受けている。前々回の平成11年度の検査でプール内面の塗装の劣化が指摘され、今回、予算の確保が出来たため改修工事を行うことになった。

改修が完了したプールで泳いだ女子学生は「老朽化が進んでいると聞いていたが、プールの中はとてもきれいだ。開放されている日にまた泳ぎに来たい」と語った。

模擬法廷リニューアル

雙峰祭で一般開放

裁判員制度に備えて

来年度5月から始まる裁判員制度に際し、本学の模擬法廷が1B108にリニューアルされた。10月11日に新模擬法廷のお披露目が行われ、雙峰祭期間中の

い、来年度3月をめどに改修工事を施工したいと考えている。施設部では、環境整備に1500万円ほどの費用がかかる見通し。

本学準研究員

警察署から感謝状

窃盗犯を御用

つぐば中央警察署は7月8日、武道館の更衣室で財布から金を抜き去ろうとした男が、逃走するところを

取り押さえたとして、本学体芸支援室の準研究員石川美久さんに感謝状を贈った。

事件が発生したのは6月25日午後6時ごろ。犯人の男は武道館1階更衣室で本学学生の財布から1万円を抜き出そうとしたところ、持ち主に遭遇した。

石川さんの同僚で同じく体芸支援室準研究員の田中洋平さんが、柔道部でコーチ

「階に忘れ物がある」などと言い逃げようとしていたと話す。

混乱がひとまず終息し、居合わせた人たちが警察に通報することに決めたとき、突然犯人の男が更衣室の窓から逃去。柔道五段の石川さんは即座に窓から飛び出し、犯人を取り押さえた。田中さんもそれに協力した。

石川さんは「犯人を目前にして、『捕まえるければ』と思った。田中さんの協力もあって、感謝状をもらえ

BSリーグ

生物科学者の卵を支援

卒論級の研究応募も

本学は6月2日、科学技術振興機構が支援する「未来の科学者養成講座」平成20年度実施機関に採択された。本学の他に京都大など4大学が選ばれている。

本学では生物学類が中心となり、BSリーグ（Biological Science League）という企画を立ち上げた。BSリーグは生物科学に興味のある小・中学生を対象に、研究指導・支援、学習指導を高校卒業まで行う「特待生プログラム」のことである。第一期生の募集により、18人のBSリーグ生が誕生した。

リーグ生には1人につき教員と大学院生が1人ずつチューターとしてつき、研究をサポートする。またBSリーグ生は筑波キャンパスや下田臨海実験センター、菅原高原実験センターといった日本トップク

かけている。本学ではハラメント防止対策委員会が度々批判的だが、法廷の雰囲気を楽しむは、不安も緩和されるのでは」と話した。

わいせつ行為 教授の処分検討 対策呼びかける

総合研究棟の室内で女性の体を触るなどわいせつな行為をしたとして、9月19日、今川重彦教授（53歳・スボ医）が逮捕された。本学は法的判断が下された段階で、調査委員会を立ち上げ、処分を検討する予定だ。

今川教授は、行為そのものは認めているが、「合意の上だった」と話しているという。わいせつ行為が行われた研究室は、ガラス張りになっているが、書棚とカーテンで外から見えなくなっていた。

本学はこの事件を受けて、研究室などで異性と一対一になるときには、ドアを開けることの徹底を呼びかけている。本学ではハラメント防止対策委員会が度々批判的だが、法廷の雰囲気を楽しむは、不安も緩和されるのでは」と話した。

ン、催涙ガスを所持していたという。

ラスの研究施設で、専門的な実験機材などを用いた実習に参加できる。

BSリーグには段階ごとに3つのリーグがあり、第一期生は来年春の「つぐば生物研究コンテスト」で10名程度がBS2リーグに選抜され、リーグ昇格に失敗した児童・生徒は次回のコンテストでリーグ復活を図る。BS1リーグにまで昇格したリーグ生のみが高校卒業までサポートを受けることができる。

今回の募集では書類審査として個人の研究報告が課せられていた。送られてきた資料はどれもレベルが高く、研究テーマが大学卒論級のものや全文が英語で書かれているものもあった。アリの一種であるトゲアリの社会集団（コロニー）形成について2年間に及ぶ研究成果を報告する資料には担当者一同驚いたという。

現在BSリーグ生は来春に開催される「つぐば生物研究コンテスト」に向けて研究テーマを決定した所だ。BSリーグ担当の尾崎好美さんは『未来の科学者養成講座』は従来の底上げ教育とは違い、トップ層の養成に重きを置いた取り組み。BSリーグ生を指導する立場になる大学院生のレベルアップにもつながると思う」と語った。

反射鏡

ムダ食い発見 家計簿の活用

岩田 裕 (看護2年)

私の節約術、それは「家計簿」をつけることだ。最近気がついた。昨年、つくばに引越してきて、ひとり暮らしがスタートした。はじめは主婦気分であつて、いたのだが、始めてみると意外とおもしろく、はまって

いた。買い物に行くとレシートを必ずもらい、帰ったらすぐ家計簿にその日の支出を書き込む。家計簿には、食費・日用品・趣味・交際などの費目分けがあり、その日の買い物やそれぞれの項目に振り分けながら書き

込む。買った物やレシートを必ずもらい、帰ったらすぐ家計簿にその日の支出を書き込む。家計簿には、食費・日用品・趣味・交際などの費目分けがあり、その日の買い物やそれぞれの項目に振り分けながら書き

込む。買った物やレシートを必ずもらい、帰ったらすぐ家計簿にその日の支出を書き込む。家計簿には、食費・日用品・趣味・交際などの費目分けがあり、その日の買い物やそれぞれの項目に振り分けながら書き

筑波時評

つくばはエキスプレス開通に伴う沿線開発により、ここ数年、私の家からも森を越えて造船所のような大型クレーンが多数見え、異様な景観である。研究学園駅には北関東最大級と言われているショッピングモールもまもなく開店する。買物の利便性が向上し消費者には嬉しいであろう。また、新たな雇用を創出され地域経済も改善される。何よりつくばの界隈性がより一層向上し活気が増すであろう。

ショッピングモールと 地域経済

空洞化進む 中心市街地 地域資産の利用で復活も



大澤 義明

より一層競争が激化し、そのあおりを既存中心市街地が最終的に引き受けることになる。つくば市へ住み替える動きにより空洞化も加速するかも知れない。結果として、通

の甲斐もなく衰退の一途を歩み続けているところが多い。また、郊外店舗出店を認め中心市街地を同時に活性化させることは、人口減少時代では難しいと単純に思うから

ただし、中心市街地には地域に根付いた歴史や文化といった地域資産もあり、それらを利用して売り上げを回復した地域が全国にある。また、高齢社会や地球環境の時代

た。町全体が活気に満ちあふれていた子供の頃と比較し、現在の雰囲気は全く異なる。ともかく人が歩いていないのである。空き店舗も多数見られ、閉店し取り壊された

残念ながら、私のような感覚は、やがて淘汰されていくに違いない。少なくとも、つくばで生まれ育った3人の子供達

は、つくば駅周辺や郊外型ショッピングモール、そして東京が好きという人、グローバル化も含めた市場原理の大きな流れは強力である。(社

マネ・教授)

文化や考え方についてよく

最後に政治専門科目だけ

で、日本の政治の中心、つまり東京から近く、

一方で、周辺市町村へ与えるマイナスの影響も大きい。大型店の乱立に

過交通のみを背負う可能性もある。

中心市街地を活性化する妙案は無いのかとしばしば聞かれる。これが一番困る。この数十年間、日本のあちこちで中心市街地の活性化が大きな課題となりながらも、努力

だ。景気の良いときに儲けた私企業に、不況だからといって血税を投入する

ことはモラル・ハザードであり積極的に賛成できない。地域性や商店主、地権者、自治体の方針と

いった個別要因も強く影響する。

私の実家は青森県三沢市商店街の中心地にあっ

た。景気の良いときに儲けた私企業に、不況だからといって血税を投入する

ことはモラル・ハザードであり積極的に賛成できない。地域性や商店主、地権者、自治体の方針と

過交通のみを背負う可能性もある。

中心市街地を活性化する妙案は無いのかとしばしば聞かれる。これが一番困る。この数十年間、日本のあちこちで中心市街地の活性化が大きな課題となりながらも、努力

だ。景気の良いときに儲けた私企業に、不況だからといって血税を投入する

ことはモラル・ハザードであり積極的に賛成できない。地域性や商店主、地権者、自治体の方針と

いった個別要因も強く影響する。

私の実家は青森県三沢市商店街の中心地にあっ

た。景気の良いときに儲けた私企業に、不況だからといって血税を投入する

ことはモラル・ハザードであり積極的に賛成できない。地域性や商店主、地権者、自治体の方針と

いった個別要因も強く影響する。

過交通のみを背負う可能性もある。

中心市街地を活性化する妙案は無いのかとしばしば聞かれる。これが一番困る。この数十年間、日本のあちこちで中心市街地の活性化が大きな課題となりながらも、努力

だ。景気の良いときに儲けた私企業に、不況だからといって血税を投入する

ことはモラル・ハザードであり積極的に賛成できない。地域性や商店主、地権者、自治体の方針と

いった個別要因も強く影響する。

私の実家は青森県三沢市商店街の中心地にあっ

た。景気の良いときに儲けた私企業に、不況だからといって血税を投入する

ことはモラル・ハザードであり積極的に賛成できない。地域性や商店主、地権者、自治体の方針と

いった個別要因も強く影響する。

世の中節約ブームである。石油や食料、さらに税金まで値上げの気運があるとなれば、世が血眼になる

のも無理はない。翻って我々だ。「金は無いが暇はある」世間では学生とは

そういうものと考えられてる。もちろん外食より安く品が出てくる、など「お得

な瞬間」が見えるようになってくる。こうなればし

「お得な瞬間」をつかめば、自炊に対する負担感も減るだろう。リズムさ

えつかめれば楽しい生活へと変わっていくはずだ。料理の腕も上がって、いざ災害

でも節約になる。

「お得な瞬間」をつかめば、自炊に対する負担感も減るだろう。リズムさ

えつかめれば楽しい生活へと変わっていくはずだ。料理の腕も上がって、いざ災害

お得な瞬間 安売りで自炊

隅田聖彦 (国際1年)

世の中節約ブームである。石油や食料、さらに税金まで値上げの気運があるとなれば、世が血眼になる

のも無理はない。翻って我々だ。「金は無いが暇はある」世間では学生とは

そういうものと考えられてる。もちろん外食より安く品が出てくる、など「お得

な瞬間」が見えるようになってくる。こうなればし

「お得な瞬間」をつかめば、自炊に対する負担感も減るだろう。リズムさ

えつかめれば楽しい生活へと変わっていくはずだ。料理の腕も上がって、いざ災害

でも節約になる。

「お得な瞬間」をつかめば、自炊に対する負担感も減るだろう。リズムさ

えつかめれば楽しい生活へと変わっていくはずだ。料理の腕も上がって、いざ災害



今月のテーマ 私の節約術

使わずもらおう
僕の節約4カ条
齋藤慶太 (社工2年)

1、衝動買いはしない。
普段みなさんは何気なくものを買っていますが、そのときにじっくりと考える

2、大金は持ち歩かない。
財布の中にお金を入れすぎていたり使ってしまったら、友達にK相Kくんが焼

3、バイト、サークルを活用する。
僕はいま総菜屋でバイトをしていますが、残りの物が

4、献血に行く。
これはなぜかと思われるかもしれませんが、意外と節約になります。献血に行く

留学生の目

ネヴェン ストゥピッチ

クロアチアの留学生で、ネヴェンと申します。私が日本に来てからもう1年間半たったが、どちらかといえば日本に来るのを全然後悔していない。家族やたくさんの友達をクロアチアに残してしまっただけで、私にとって本当に大きな悩みだった。日本では世界中の学生と知り合いになったり、何人かの学生が一生の友達になったりしたから

ところで、どうして留

学する先として日本を選んだのかという質問を受けることがよくある。それに答えることはそんなに簡単ではない。小学校から医者になりたかったが、私は高校では本当にどんな仕事をやりたいか、つまり私にとって一

番楽しいことや一番適当な仕事は何かということに迷っていた。しかし、人権に興味を持ち、討論することが好きだったから政治を勉強することに

した。その時、偶然に新聞で日本の文部科学省による奨学金プログラムについて記事を見た。あまり長く考えずに、合格をしないと思いついて大使館で受験した。その結果、受験の9ヶ月後大阪で日本での授業を受けられるように日本語を勉強する



友に助けられ学ぶ日々

留学生の人数が日本で、日本の政治の中心、つまり東京から近く、最後に政治専門科目だけ

読者は1万人

本紙では皆様からの投稿を募集しています。

学内問題に対する意見
サークル案内 など

学生、教職員の方々の
多様な意見を
お待ちしております。

投稿募集

次号のテーマは
心に残る「曲」です

連絡先
TEL 0296-8536-6666
e-mail shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

スポーツ嫌いでも楽しめる



筑波大学の共通体育

ニュー
スポーツ

体育専門学群を擁する本学では、必修科目「自由科目」合わせて30科目以上の体育の授業が履修できる。その中には運動が得意な学生でも楽しめるものや、高校時代までにはおそくお目にかからなかったであろうものも少なくない。今回は数多くある中から4科目を取り上げ、授業の様子などに迫った。(本紙・雪丸千彩子Ⅱ人文学類、磯野潤、高橋俊樹Ⅱ社会学類、島本剛司Ⅱ社会学類)

ニュースポーツとは競技性を重視せず、誰でも参加できることを目的としたスポーツの総称である。私たちがとってまた馴染みの薄いこのスポーツについて、長谷川悦示准教授(体育)に話を聞いた。

長谷川准教授が担当する授業では、1学期にフリスビーアルティメット、2学期にフラグフットボール、3学期にゾーンサッカーを行っている。

フリスビーアルティメットとはディスクをパスによって運び、敵陣エンドゾーン内で味方からのパスをキャッチすると得点になるという競技だ。フラグフットボールはアメリカンフットボールを簡単にしたもので、タックルの代わりに腰から下げた「フラグ

(細長い旗)を奪って敵の前進を止める。ゾーンサッカーはルールもコートもフットサルと同じである。ただしゴールネットやポストを用いず、ゴールゾーンと呼ばれるエリアにシュートをする点だけが異なる。

ニュースポーツは正規のルールにとらわれないこと、自分たちの技術や体力に応じて、ルール変更が可能なのが魅力の1つである。実際に競技を行う中で、

「女子が得点したら2点」といったルール変更が学生の意見で行われる。長谷川准教授は学類の枠を越え学生たちが仲良くなることを第一に考えており、「同じ授業をとっているのに、名前も知らないのは寂しいこと」と語る。

そこでこの授業では、兄弟チームという形をとっている。全体をいくつかのグループに分け、さらにグループを2つに分ける。分けるため、互いを応援しあひ、欠員が出た時は兄弟合うようになっている。グループ内では補充する。兄弟チーム同士が対戦することはないので、互いを応援しあひ、欠員が出た時は兄弟合うようになっている。



フラグを奪って攻撃を阻止する(フラグフットボール)

仲間との結束固く

自転車ですっそつとコースを駆ける



サイクリング

グループのメンバーがいるのを確認し、自転車にまたがり、つくばの自然の中を駆けていく。サイクリングの授業の中の光景だ。

サイクリングの授業の規模は1クラス40名程度で、走る距離は約10〜25キロメートル。サイクリング場を出発し、大学周辺を走るコースだ。使用する自転車は、普段学生が使っているものよりも競技に近い快走車が貸し出される。

また、授業は1年間を前期・後期に分けて行われてい

る。前期は2、3人でグループを作り、決められた範囲内で自由にコースを決めて走る。後期になると、自分で設定した時間内にコースを走る申告タイムレース「赤とんぼ」のようなユーモア溢れる作品もある。

自然の中を駆けぬける

授業で工夫している点について橋直隆教授(体育)は「学生たちに、体を動かすことの楽しさを味わってもらい、将来的にも体を動かすモチベーションを持つきっかけとなってもらうようにしている」という。サイクリングにはさまざまな魅力があるが、特に「スピード、克服、旅」の中に醍醐味があるという。自転車は、人力のなかでは最大のスピードが得られる乗り物だ。きついコースを走り切り、克服した時の達成感を知って欲しい」と言葉をはげめ、知らない雄大な自然の中をサイクリングの醍醐味を感じながら走るのはいかがだろうか。

ゴルフ

富里藍、上田桃子などの女子ゴルフ選手や、「ハニカミ王子」こと石川遼選手の活躍により、近年ゴルフの活況が著しい。そのゴルフだが、本学においても、必修体育の1つとして実施されている。

授業は基本的に体育センタールームの側にあるゴルフ練習場で陸上競技場の芝生の上で行われる。思い切り飛ばすことも、正確な距離を打つことを目的とし、パターゴルフなど

行う。和やかな雰囲気の中、1回約30人の学生が集まり、授業を受けている。ゴルフ初心者が大半を占める授業では、基礎から丁寧に教わる。「ゴルフは打つ感覚が大事。その感覚が分かると、ゴルフの楽しさが実感できる」と、授業を担当する白木仁教授(体育)は語る。



実践に備えパターの練習をする

1学期はクラブの構えに始まり、2、3メートル離れた小さなボールを打ち入れるまで、一から指導が行われる。特にアドレス(構え方)は最も大事であり、アドレスの3要素であるグリップ(クラブの握り)、ポスチャー(身体の角度)、スタンス(立ち位置)を意識して取り組む。白木教授は、生徒が飽きてきたと感じた時点で次の段階に練習を進め、生徒が自発的に取り組めるよう工夫しているという。

2学期には、集中授業で実際のコースをグループで回りながら、思った通りの場所を打てる技術の習得に努める。また、その際にききかけとして、今後ゴルフ場でマナーも学ぶことができる。

3学期は、ショートゲームの時間をあてたり、土日にコースを試走したり、ハーフマラソンに出場したりすることもある。授業が始まったのは今から18年前。それからすでに20年近く続いており、受講者は約1000人を超えている。「こんなに続くとは正直思っていなかった。エネルギーの無駄とも思っているが、筑波大生に積極的に挑戦するところが、いいところですね」と鍋倉准教授は笑顔で話す。

コースで実戦練習

ムを中心に練習を行う。陸上競技場に設けられたミニコースをグループで回り、賞品にジュースをかけて競い合ったりもする。

授業を受講する小幡真琴さん(情報2年)は「ちょっとした力の入れ具合でボールをコントロールするコツのいるスポーツで、やりがいがある」とゴルフの魅力語る。また、応理2年の男子学生は「授業を重ねるにつれ、新しくなることがどんどん増えていくのが面白い」と話す。授業を受けるうちに、ゴルフの楽しさが次第に広がっているという。白木教授は「授業を通してゴルフに興味を持ってもらえればいい。これをきっかけとして、今後どんどん取り組んでもらいたい」と話した。

つくば
マラソン

スタートを告げるヒスト

ルの音と共に、1万人を超えるランナーが一斉に走り出す。ランナーはさまざまに思いを胸に秘めて、42.195キロの旅路を駆け抜けていく。

毎年11月に行われるつくばマラソン。つくばは多岐にわたる大会には、自由科目の「つくばマラソン」を受講した学生が毎年90人ほど参加している。大



昨年のつくばマラソンでの「コマ

新しい自分に出会う

と、授業を担当する鍋倉治准教授(体育)は話す。

授業は講義と実技が中心。講義は生理学や栄養学など、マラソンを走る上で必要なことを専門の教員が講義するという形式をとっている。実技は本学周辺のランニングが中心だが、授

果たした人もいます。記録以外の面でも、学生にとっては大きな飛躍がある。マラソンを通して自分自身と対峙し、弱い自分を受け入れ、乗り越えていく。受講している比文の女子学生は、「マラソンは苦しいものというイメージがあったが、走ることが楽しいと

生は、「マラソンは苦しいものというイメージがあったが、走ることが楽しいと

生は、「マラソンは苦しいものというイメージがあったが、走ることが楽しいと



第3回インターナショナルカフェが、9月14日、総合交流会館で開かれた。インターナショナルカフェは、学内の留学生や海外からの研究者を始めとする外国人と、市民や学生とが交流することを目的にしている。以前から学生向けに5C棟と春日地区で開催されているコスモスカフェを、外部に対しても開いてほしいという要望に応えたものだ。

開場と同時に用意された席はすぐに満席になり、主催者の白岩善博教授(情報生物)は、「つくば市は国際性豊かな土地。コミュニケーションの基礎固めの場として利用してもらえれば」と思い企画したと語った。

来場した会田厚子さん(つくば市)は「広告を見て来た。英語を話したいと思っていたので、こういう場があるのはありがたい」と笑顔を見せた。スタッフの安達大輝さん(生物3年)は「英語を話す練習がしたかった」と語り、参加者と進路やタイミングなどの話に花を咲かせていた。



談笑する参加者たち

白岩教授は「参加者個々の交流も芽生えており、うれしい驚きを感じている。回を重ねる度に発展しており、今後も継続して開催したい。語学の練習など方々の使い方はそれぞれ、広く開かれているので、学生の積極的な参加を望んでいる」と期待を寄せた。

インターナショナルカフェは、今後月2回程度開かれる予定で、LALAガーデン(つくば市小野崎)で開催する計画もある。

受賞作は土井雅也さん(芸専3年)の『埋葬』。佳作は小野真さん(PN・医学4年)の『&アンド』に決まった。なお、土井さんは本紙270号の学生文学界にも作品を寄稿している。

「車椅子から」眺めた社会

約3年間、21回にわたってコラム「車椅子から」を執筆した。取り上げたのは大学の入学式から六本木ヒルズ、ソニーのゆくえんなどさまざまな社会を車椅子から柔軟に

追悼 菊地堯さん

約3年間、21回にわたってコラム「車椅子から」を執筆した。取り上げたのは大学の入学式から六本木ヒルズ、ソニーのゆくえんなどさまざまな社会を車椅子から柔軟に

大学院では、「ICタ

筑波大オリジナルグッズ トイレットペーパーで本学をPR



大学の豆知識が載っている「ツクルクルッ」

本学のオリジナルグッズを扱うU-Tショップに新商品が登場する。筑波大学トイレットペーパー、その名も「ツクルクルッ」である。これは広報戦略室開設の特設自由科目「筑波大学を創る」という授業を受講した学生らが企画したものである。製作の中心となったのは戸谷朱里さん(知識図書2年)、人見千尋さん(同

学生らが企画、商品化 古紙リサイクルも視野に

2年)、古川美歌さん(生資料1年)。今回、紫峰会とU-Tショップの協力を得て商品化に至った。

トイレットペーパーは薄い緑色の紙いっばいに、緑のインクで本学の施設の紹介や噂怪談が載っている。読んで人が思わずニヤリとしてしまう内容ばかりだ。文章の背景には、天の川や平砂宿舎など、それぞれのエリアの特徴をとらえたイラストが描かれている。また、芯に香りを付け、使用する際、優しいコロンの香りがするよう工夫した。

「ツクルクルッ」は、学生の手軽なお土産になるほか、来校者へのPR商品にもなる。トイレで思わず見入ってしまう、本学の知ら

中学生の映画を上映

つくちゅうシネマワークショップ
夏休みから続いていた「つくちゅうシネマワークショップ」で制作された映画の上映会が、9月7日に本学春日地区講堂で行われた。上映されたのは、「消せない友情」という20分の映画で、中学生の活躍ぶりを本学スタッフが撮影した「メイキング」作品。上映にはデジタルシネマ仕様の超高精細大型プロジェクトが使用された。

筑波学生文芸賞 受賞2作品が決定

本学の学生が運営する筑波学生文芸賞の入賞作品が9月、発表された。同賞は本学生を対象に4月1日から6月30日まで作品を募集し、第1回である今回は、22作品が集まった。7月の一次選考を経て、8月の最終選考で受賞作と佳作が選ばれた。

受賞作は土井雅也さん(芸専3年)の『埋葬』。佳作は小野真さん(PN・医学4年)の『&アンド』に決まった。なお、土井さんは本紙270号の学生文学界にも作品を寄稿している。



質問に答える「つくちゅう」たち

ひったくり多発
学生へ注意促す
8月下旬から9月にかけてひったくり事件が多発している。

8月30日の午後12時半ごろ、平砂学生宿舎の東方に面する通りでバイクに乗った2人組が、自転車で行く中の本学生の前方に横断した。バイクを追い越して盗み、逃走した。数日後、東大通り沿いで財布を除くバックに入っていた所持品が見つかった。

9月に入り平塚線桐葉橋付近で深夜、本学生が自転車歩道を走行中、男に道を尋ねられた。本学生が停止したところ、男が突然前カゴのバックを盗もうとした。被害学生の抵抗によりバックは盗まれなかったが、犯人の男は、即座に仲間が発達の準備をしていた自動車に乗り逃走。

同月、春日でも同様の手口で本学生を引き止め、暴行するという事件が発生した。物は盗まれなかったが、被害学生はけがを負い病院に搬送された。

また学外の女性らが、犯人に自動車のバックを盗むつかまれ、そのまま引きずられるという事件も発生している。

学生生活課はポスター製作など、学生にひったくりへの注意を促している。

委員会が雙峰祭で配布する冊子に全文掲載される。冊子には他にも最終選考会の様子や全応募作品に対するコメントなどを掲載する予定だといふ。

代表の萩原和樹(人間3年)さんは、同賞について「小説を読んだり書いたりすることを通じて、筑波大全体で学生が共有できるものを作れたかった。スタッフ

と想う」(04年9月6日第2309号より)。日常的に直面する「障害者たち」という決めたつては、静かに反論した。博士課程で研究を続けることを目指し、今夏には論文2000枚を書いていたが、それも本人にとっては序章でしかなかったという。

27日の夕方、意識不明の巨元へ、母・明美さんが何度も携帯電話をそっと押し当てた。約6年間の大学生活で共に学んだ友人らが、受話器の向こうで声をかけたたび、心音に変化があったという。道半ば。生きようとし続けたのだ。(中田絢子・比文07年卒)

第11回ホームカミングデー

卒業生との交流会

第11回ホームカミングデーが10月11日、午前10時から午後2時にかけて本学の大学会館・総合交流会館にて行われる。

同会は、卒業生と教職員

の交流を深め、本学の一層の発展に貢献する目的で、

本学の卒業生とその家族を招待するもの。今回は昭和63年度3月卒業（医学専門学群）の卒業生は平成2年3月卒業、の卒業生とその家族が対象とされる。

校長らが受験指導

教員を目指す学生を対象に、教員関係就職ガイダンスが開かれる。初回は、10月22日午後1時45分～午後3時45分に、総合研究棟A111で、教員試験合格者が体験談を語る。

飯田國雄氏や土浦第一高等学校校長村松輝美氏らを講師に招き、10月29、30、31日、11月4、5、6、7日に行われる。2回目以降は、地域別の受験対策指導をする予定。

CO2削減

全学で節電に取り組む

9月18日から全学に「CO2削減のため電気使用量を5%削減」というポスターが掲示されている。節電につながる具体的な措置に全学で取り組んでいることと広報している。

現在、本学は削減目標を超えてCO2を排出している。さらに、原油高の影響を受け、本学の光熱費は例年より3億円増加する見込みがある。

催事

催事

◆茨城県近代美術館コレクション展「安藤信哉・小堀進・永瀬義郎の世界」茨城県つくば美術館にて10月19日まで。午前9時半～午後5時（入館は午後4時半まで）。入場料は一般80円、高校・大学生110円、小・中学生80円。

講演会

◆人文学類文化講演会「アンコール遺跡の学術調査と修復事業」10月29日、午後3時～4時半。1H101にて。

日ごろの成果を発表

本学大学院芸術研究科・人間総合科学研究科前期美術専攻の洋画・日本画・版画学生による作品展（MC展）が開かれる。

今年度で24回を迎える「MC展」は洋画・日本画・版画を学ぶ博士課程前期1、2年生による作品展。出展する学生の多くは個展やグループ展などで学外へ作品を発表しているほか、全国レベルの公募展に出展

次号は

11月10日(月)

発行予定です

筑波自然図鑑

◇チュウシャクシギ◇ 撮影地=千葉県三番瀬



春や秋に休耕田や干潟で見られる渡り鳥。シベリアなどで繁殖し、越冬のため東南アジアやオーストラリアへ渡る。日本は、その旅の中継地だ。茨城の浮島、谷田部などでも見られる。チュウシャクシギは体長40センチ、くちばしがツルハシ状なのが特徴的なシギチドリの仲間。長いくちばしを巧みに使い、餌となる「ミズやカニ、ゴカイなどを捕まえる。長い旅の途中、田んぼで餌を探すのに夢中になっている姿を見ると「お疲れ様」と声をかけたくなる。（写真・文＝河嶋隆司、生物4年 野生動物研究会）

Who's Who?



「おとなび」を手にする武谷さん

国立科学博物館「おとなび」作成

武谷真由美さん（生物科学2年）

道端に咲いているタンポポが、コヒーとして飲めることを知っている人が何人いるだろうか。味は苦くはなく、香ばしい麦茶のようだという。国立科学博物館2階たぐいん広場で配布された「おとなび」の裏面にはタンポポの知られざる世界が広がっている。

大人の科学はなれを危惧 原理を理解する感動を

パートナーシップを結んで行った「サイエンスコミュニケーション養成プログラム」を経て作られた。サイエンスコミュニケーションとは、研究者が科学技術を分かりやすく伝える、一般の人が科学への疑問や要望を提案するなど双方のコミュニケーション活動のことだ。最近の科学技術の進歩はめざましく、研究者の立場から一般の人に向け成果を分かりやすく発信することが難しいと武谷さんは考えていた。

「おとなび」を手にする武谷さん

大学会館書籍部ベストセラー

1	容疑者Xの献身	東野圭吾/文芸春秋
2	砂漠	伊坂幸太郎/実業之日本社
3	たった3秒のパソコン術	中山真敬/三笠書房
4	魔王	伊坂幸太郎/講談社
5	流星の絆	東野圭吾/講談社
6	宗教学の名著30	島園進/筑摩書房
7	リアルのゆくえ	大塚英志/講談社
8	O型自分の説明書	Jamais Jamais/文芸社
9	少しだけ欠けた月	重松清/文芸春秋
10	夢をかなえるソウ	水野敬也/飛鳥新社

今月の1位は東野圭吾の「容疑者Xの献身」。